

## 編集後記

『陽明学』第三十三号をお届けいたします。今年度は秋に「近代日本の学術と陽明学」と銘打った大きなシンポジウムを開催し、その記録を本誌の別冊として公刊いたしました。多くの論考をいただいたため、こちらの定期刊行については、些かの危惧をいただいていたのですが、全くの杞憂でした。シンポジウムとは別に十二月に開催した講演会に中純夫先生を招きし、大きなテーマのご提示と、ご参加の諸氏からの熱い議論がありました。本号には、中先生のご講演の記録を寄稿論文として掲載しました。また、別冊でもご登場いただいた永富先生からも御高論をお寄せいただきました。資料の発掘と正確な位置づけは、学術研究の基本です。貴重な情報を本誌に掲載することができました。若手研究者の山路氏の論文は、厳しい査読によって大きく精度を上げた力作です。ベテランと若手の格闘こそ、教育研究の醍醐味です。経過を間近で楽しめたことも、編集の収穫でした。その他、町・鈴置両氏からの貴重な資料紹介、また継続的に掲載している輪読会の成果報告を含めて、予想外の大部としてお届けできることを、幸いに思っております。

また、  
なお、本年度はセンター長の田中正樹先生が研究休暇をお取りになっている関係で、所長の牧角が陽明学研究センター長を兼務いたしました。

二〇二三年三月

牧角悦子